

# 沖縄県青年海外協力隊を支援する会会報

(題字: 末次一郎氏)

第4号

〒901-21 沖縄県浦添市前田1143-1  
国際協力事業団沖縄国際センター内  
TEL 098-876-6000(代)  
沖縄県青年海外協力隊を支援する会  
発行責任者：事務局長 平川宗隆

(沖縄県八重山地方の方言で南十字星の意)

ジバグエに迷惑を喰らハペー  
成功裡に終了!!

昨年末から繰り広げられてきた「ジンバブエに楽器を贈るキヤンペーン」は本年一月末日をもって成功裡に終了した。

昨年十月、「社協力隊を育てる会」主催の平成七年度「協力隊活動現地視察の旅」の南部アフリカコースの副団長としてザンビアを訪問した平川事務局長は、隣国のジンバブエの視察も併せて行つた。

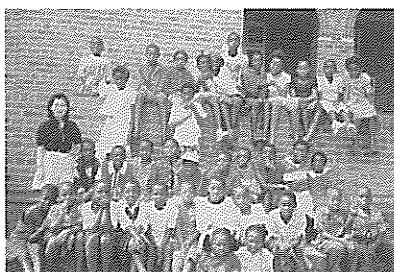
ジンバブエに滞在中音楽教師で同国に赴任している渡真利道隊員から、楽器の提供依頼を受け、帰国後、稲嶺会長と相談の結果、同キャンペーンを計画し実施に踏み切ったもの。

リコード一八七七、メロディオン一三八、カスタネット一四六、ハーモニカ九二、タンバリン三〇等合わせて一、三〇〇点余の楽器の寄贈及び輸送費として一五万三千一〇七円の貴重な寄付金が寄せられた。

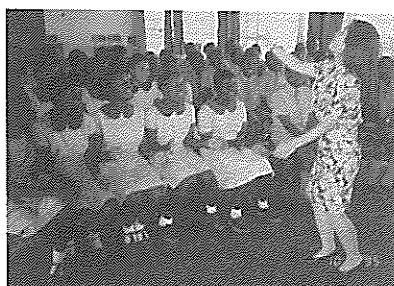
また、集まつた樂器は三〇〇キロを優に越し、全て郵送するには莫大な資金が必要となることから、できるだけJICO A職員の協力を得て、出張の際携行してもらうことをお願ひした。

このことに関しては、沖縄国際センター加藤所長、高間次長及び国内協力員の東風平さんのご協力に負うところが大きいし、さらには自分の荷物以外に一〇〇キロ近くの余計な荷物を好意的に携行していただいたJICA無償資金協力調査部の益田さんらには心からお礼を申し上げたい。

い深く感謝申し上げます。



生徒と一緒に



### 渡真利隊員の授業風景

論 哲 學

1996年（丙戌8年）

3月9日 大體白

呼びかけに善意続々

第一便是22日現地へ

**[前編]** 異青年海外協力隊員を支援する会（相澤義和会長）が県民に呼び掛けられた「サンハーツの手伝い」キャンペーンで、リコーカメラやスヌードルなど年半程度三十六点の贈物が県内施設から寄せられた。沖縄の警察署に寄りてした贈物が遠くアフリカ大陸の子供たちの手に渡る「国際的サヘル」。その第一回は千円に現地に届けられる。

## はいむるぶし

## 「ジンバブエに楽器を贈るキャンペーン」 楽器及び支援金受付

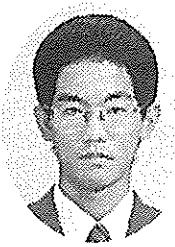
氏名	Sリコーダー	Aリコーダー	メロディオン	カスタネット	ハーモニカ	オカリナ	スズ	その他	支援金
稻嶺 恵一									¥100,000
花城 順子	1	1				1			¥2,000
比嘉 清香	2		1					日本笛 1	
伊霸 宏					2				
新川 隆									¥500
上地 富子		1	1						
伊藤 幹			2						
新垣 真清								フルート 1	
盛升 誠	1	2	3		1				
金城 圭子	1		1		1	3	1		
上地 正栄		1							¥20,000
城間 清	1	1							
新川 紀子		1	3	1	1			バチ 4	¥3,000
山川 宗伸	2	2			1				
ダイダン(株)	2		3						
脇 けい子									¥1,000
高江小中学校	3			1	1		1	タンパリン 1	
吉本 茂美	1		6						
渡久地 昌子	1	1	1	1	1			卓球ラケット	
与儀 有晃				30					
遠藤 義夫		1	1						¥50,000
田崎 米子									¥3,000
渡慶次 正一		3	2						
松川 祐	2	2						バチ、木琴	
吳屋バブテスト教	23	17	21	59	3		3	トライアングル	¥62,607
石嶺バブテスト教	2	1	4		2				
大城 チヨ子	3	2	1					おもちゃ等	
當銘 ユウ子			2						
比嘉 ふじ子			1						
浦崎 安雄	57	9			17				
西表 英子	4								
ピアノプラザ沖縄	9	157							
田崎 由美子			1	2					
友寄 和子		1				2			
伊藤 明		2							
島 光子	2	2	1	1	2				
屋 良樹	1	1							
新崎 静子	2	1	4					小だいこ、他	
我那覇 貴恵			2						
名嘉 政修									¥1,000
長濱 守毅									¥5,000
西田 淳子	20			20				タンパリン20	
山里 司	2		1						
新里 米吉									¥5,000
徳本 美代子	2		2	2					
棚原 由紀子	3			1	2	1			
知念 美佐枝	1	3	6					パンケース	
上地 千恵子	8	2	7	4	10	1			
吳屋バブテスト教	24	6	2		18		3	タンパリン他	
高良邦弘	385	1	4		10			音楽ノート	
笠井 美和子	1	1	4				1	木琴等	
普天間高校	5	1	3	1					
げんごろう子供会	4	1	5	5	3				
野波 栄吉	2	2	1					木琴	
新垣 美代子	1	1	2	2	1	1		スライド式笛	
仲間 繁子			4						
沖縄ダイケン	5	6	10	2	4			木琴他	
仲里 尚子	1	1	1					木琴	
金城 みのり	1	1	1						
島袋 阿由子	3	3	8	2	2				
平川 宗隆	22	29	15	12	6	1	2		
伊波 和子			1		2				
日経ビジネス工学院									¥26,650
合計	610	267	138	146	92	7	12	64	¥279,757

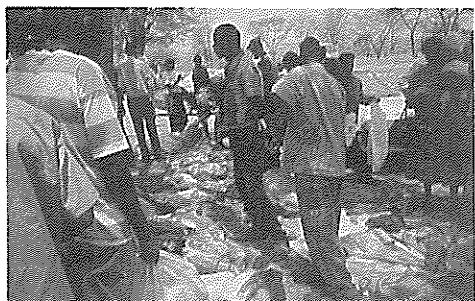
※その他にもタンパリン、トライアングル、木琴、ドラム等多数の寄贈がありました。

## はいむるぶじ

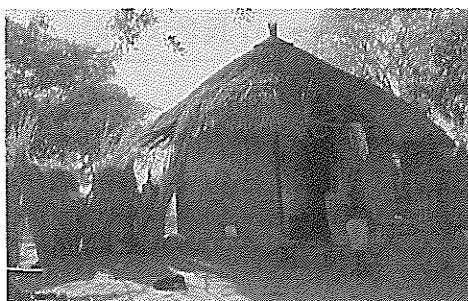
## 新隊員紹介

・H7年度第二次隊

	氏名・年齢	宮国 克信	25歳
	住 所	豊見城村平良188-21 豊見城団地B9-304	
	趣 味	釣り、野球、植物栽培	
	任地・職種	ケニア・野菜	
	現在の心境	アフリカへ行って、野菜を育てるだけでなく、アフリカの文化を学び、また、沖縄、日本の文化を伝えたいと思います。	
	氏名・年齢	宮里 菊乃	30歳
	住 所	伊江村字川平200	
	趣 味	旅行	
	任地・職種	フィジー・保健婦	
	現在の心境	カンタブ島の人々と一緒に過ごし、楽しんできたい。元気に行って、より一層元気になって帰ってきます。	
	氏名・年齢	田仲 美和子	36歳
	住 所	那覇市大道172	
	趣 味	バドミントン、歩くこと	
	任地・職種	ザンビア・数学教師	
	現在の心境	沖縄の海を離れるのはつらいですが、アフリカの大地を早く踏みしめたいという気持ちで一杯です。	
	氏名・年齢	幸地 美奈子	24歳
	住 所	那覇市楚辺2-39-6	
	趣 味	絵を描くこと	
	任地・職種	ジンバブエ・ソフトボール	
	現在の心境	スポーツには言葉では表すことのできない何かがある！それを伝えに行ってきます。	
船附 美奈子 27歳 〒907 石垣市字石垣406-1 保健婦 ジャマイカ			



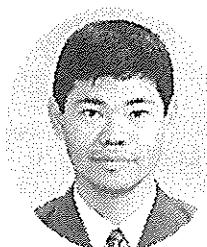
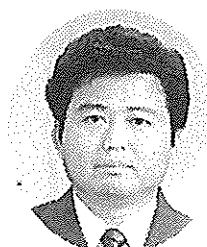
露天で牛肉を売る(ザンビア)



田舎の風景(ザンビア)

## はいむるぶじ

## ・H7年度第三次隊

	氏名・年齢	島袋あゆみ 29歳
	住 所	豊見城村平良238-6 (F-14)
	趣 味	絵を描くこと、旅行、沖縄を愛すること
	任地・職種	ホンデュラス・小学校教諭（算数プロジェクト）
	現在の心境	沖縄に似たホンデュラス南部のチヨルテカで、現地の人の中にとけこんで、第2の故郷として楽しく暮したい。その体験や喜びを沖縄の子ども達に伝えていきたい。
	氏名・年齢	高江洲みどり 24歳
	住 所	沖縄市松本2-8-3
	趣 味	水泳（国体出場経験）
	任地・職種	コートジボアール・音楽（声楽教師）
	現在の心境	これまで勉強してきたこと、経験してきたことをうまく発揮していきたい。沖縄のわらべ歌なども紹介できるといいなと思っている。アフリカの歌を習ってから帰国したい！
	氏名・年齢	大城 謙 24歳
	住 所	糸満市字座波296
	趣 味	釣り、旅行
	任地・職種	エルサルバドル・バレーボール
	現在の心境	ナショナルチームを教えるのが主な仕事ですが、子供達から一般までの人々に、バレーの楽しさを幅広く教えることができたらいいと思う。
	氏名・年齢	神里 敦夫 29歳
	住 所	南風原町字山川23
	趣 味	将棋、バスケットボール
	任地・職種	バングラデシュ・野菜
	現在の心境	無事、行けるのだろうか？
	氏名・年齢	仲間和男 35歳
	住 所	国頭郡金武町字金武868
	趣 味	カントリー音楽、カメラ（接写）
	任地・職種	タイ・果樹
	現在の心境	トラブルに巻き込まれないように気をつけたい。考え過ぎないで一生懸命できることをしてみたい。

# はいむるぶじ

## ザンビア訪問記

沖縄県青年海外協力隊を支援する会

事務局長 平川宗隆

平成七年十月三日から十月十四日までの十二日間、(社)協力隊を育てる会主催の「平成七年度協力隊活動現地視察の旅」の南部アフリカ班、副班長としてザンビア共和国を訪問したので、その状況を日記風にまとめてみた。

五日の昼頃、ザンビアのルサカ空港に到着、そこにはむかえの隊員が待機していて、お互いに久しぶりの対面に感激していた。その日の夕食は沖縄県出身の町田宗和隊員(薬剤師)がたまたま定期健康診断のため、ルサカへ来ていたのでホテルへ呼んで一緒に食事をした。彼の任地であるチバタまでは五〇〇キロ程も離れている上に、道も悪いし定期バスもないというので困り果てていたところ幸運であつた。

十月六日からはフリーになるので沖縄県出身で現地の方と結婚し、長年ルサカに住んでいた高良初子さんを訪ねた。ご主人はザンビア大学で助教授の要職にあり、そのつてで同大学獣医学部と接触を持つ機会を得たことはラッキーだった。そのお蔭で、遠くアフリカの地で筆者の本職である肉内検査の現状を見ることができた。これは帰国後、スライドにして職場で発表したが皆興味を示してくれた。高良さん宅で一日間お世話になり、ウチナーそばまで御馳走になつた。アフリカのウチナーそばはとてもおいしかった。

八日、かねてから訪問を予定していた沖縄県出身でジンバブエの渡真利道隊員(音楽)を訪ねるために、空路ルサカからハラーレへ飛んだ。彼女の任地はハラーレから三〇〇キロ離れたムタレであるが、訪ねて行く時間的余裕がないためにハラーレに来てもらうことになった。宿泊しているシェラトンホテルで夕食をしながら現地の状況を聞くことができた。七月に赴任したばかりであるが、英語もうまく現地に溶け込み、元気に頑張っている様子であった。

このように、沖縄の新聞等のちょっととしたおみやげを持参し故郷の近況を伝えたり、任地の状況や悩み事を聞いたりすることは、協力隊を支援する会の意義からして大変重要なことであると感じた。ふとしたことからハラーレのJICA事務所の伊藤調整員の奥方

は沖縄県出身で協力隊OGの旧姓金城直子さんと判明、早速JICA事務所を訪ねることにした。伊藤さんから夕食の招待を受け、その後は直子さん手作りの豚のソーキ汁と南アフリカ直送の白身魚の刺し身を御馳走になり感激の一時を過ごすことができた。付け加えると直子さんの父君は筆者とかつて共に仕事をした仲間であり、地球が小さくなつたことをあらためて実感した。

十日、ヴィクトリアフォールズ行きの臨時便に乗るために、午前四時に空港へ向かった。有名な観光地のため混んでいた。世界三大瀑布と言われるだけあって、そのスケールは見事であった。滝を観たあと、ザンビアへ戻ることになつていたが、ルサカ行きの定期バスは既に出払つた後であった。飛行機は週三便しかなく、またその日はフライトの予定が無い日であった。夜行列車はあるものの、その出発時刻はあてにならない。最後の頼みの綱は国道沿のヒッチハイクだ。意を決して通る車に手を挙げる。ほとんどの車は止まつてくれる。定員オーバーや目的地違いで数台やり過ごす。時間も一時間ほど経過する。気は次第に焦つてくる。やつとのことでフォードのピックアップを拾うことができた。条件はガソリン代を持つことで交渉成立。五〇〇キロのほぼ一直線の道程を時速一〇〇キロ程で吹っ飛ばし、約六時間かかりハラーレへ着いた。

ザンビアは治安が悪く常に気を付けるようと注意されており、一抹の不安はあるものの無事ホテルへ着いたときは感激だった。余分に二〇ドルのチップと衣類を二~三枚あげた。日本とザンビアの小さな親善交流で、筆者にとつてザンビアは好印象の国となつた。

十一日、それぞれの子息のもとに散つていた訪問メンバーも三々五々帰ってきた。

公式日程の最後の日で、四時から在ザンビア日本大使館表敬訪問に出かけた。大使が出張中のため参事官が対応してくれた。一人ひとりから任地の状況や隊員のことを尋ねられ、父母等からは、自分の子息の成長を目の当たりにした感激の言葉が多く聞かれた。

A事務所長、調整員や多くの隊員らの参加を得て会は盛り上がつた。短い日程ではあったが、久しぶりにアフリカの地を踏めたこと、久しぶりに隊員の任地を訪問し、働く現場を見ることができたこと、沖縄県出身の方々にえたこと、協力隊を支援する会として一つの方向性が見えたこと、「三大瀑布」一つであるヴィクトリアフォールズを見学できること等、収穫の多い「協力隊活動現地視察の旅」であった。

# はいむるぶし

## 「シンバフ工に笛を贈るキヤンペーン」協力者の声

・息子が十年以上も前に使っていたハーモニカ、リコーダーです。

捨てきれず押入れの奥にありましたが、今回テレビで情報を得、役に立てばと思います。名前が洗つても落ちません。大変な仕事だと思いますが、頑張って下さい。

那覇市泉崎一一九一〇 友寄和子

・我が家の大娘一人が楽しく学んだピアニカを、まだどこかの子供さんたちに楽しんでもらいたく贈りますのでよろしくお願いします。 田崎

・与古田門中十名の方から、親戚である平川事務局長あて五万円の寄付

・遠藤義夫O.B.、久美子OG.ご夫妻（石垣在）から五万円の寄付

・日経ビジネス工学院（島袋永伸学院長・本会理事）の職員、学生から二万六千円余の寄付

・胡屋バブテスト教会から六万一千円余の寄付

・財沖縄県国際交流財團副理事長の新里米吉氏五千円、同職員長浜守毅氏五千円、名嘉政修氏から千円の寄付

・現在ケニアで活躍中の上地正和隊員のお父さん正栄さんから二万円の寄付

・花城順子さん二千円、新川紀子さんから三千円の寄付

・脇けい子さんから千円、田崎米子さんから三千円の寄付

・稻嶺恵一会長から第一号として十万円の寄付  
皆さん大変有り難うございました。

## 事務局だより

▲九月▼

十二日 第一回運営委員会（那覇市・八重竹）

▲十月▼

三日～十四日 平成七年度協力隊活動現地視察の旅・南部アフリカコース（ザンビア）

副団長・平川事務局長

二十四日 協力隊秋募集説明会（沖縄国際センター）平川事務局長

二十五日 同（琉球大学）平川事務局長

二十六日 同（名護市）平川事務局長

二十八日 同（沖縄国際センター）平川事務局長

平成七年度第二次隊員壮行会（浦添市）  
平川事務局長

▲十一月▼

六日 同（那覇市）平川事務局長

九日 同（沖縄国際センター）平川事務局長

平成七年度第二次隊員壮行会（浦添市）  
平川事務局長

▲十二月▼

二十五日 関係者へ年賀状送付

二十八日 「シンバフ工に楽器を贈るキヤンペーン」県内マスコミ各社へ協力依頼 稲嶺会長、国際センター所長、平川事務局長

二十七日 平成七年度留守家族懇談会（沖縄国際センター）稻嶺会長、平川事務局長

▲一月▼

二十二日 NHKテレビ出演「シンバフ工に楽器を贈るキヤンペーン」平川事務局長

二十七日 平成七年度留守家族懇談会（沖縄国際センター）稻嶺会長、平川事務局長

▲二月▼

六日 「シンバフ工に楽器を贈るキヤンペーン」発送セレモニー（沖縄国際センター）稻嶺会長、平川事務局長